

地で、昔はこゝから岸川河岸へかけて、櫻樹を植えてあつたためその名が起つたものといはれ、櫻木も櫻島も悉く連続の地であつたと傳へられる。

サクラギンジンヤ 櫻木神社 石川郡泉野新に鎮座し、俗に櫻木の八幡と呼ばれた。従來神主もなく、當山派山伏寶光寺の持宮であつたが、明治五年村社に列し、今の社號に改めた。龜尾記に、この地櫻の四郎といふもの邸内であつたとするが、信じられぬ。

サクラギンジンヤ 櫻木神社 鳳至郡鶴川にあつたが、今同地菅原神社に併合した。能登名跡志に、『此の岡を櫻木といふ。則櫻木の宮あり。御神林此花開耶姫の命なり。春日の作。相殿少名彦の命は本地薬師如來、行基の作なり。境内に御手洗の井とて薬水あり。能登十二薬師の内なり。昔は兩部習合の大社にてありしに、平治年中鶴川合戦の時、兵火の爲に退轉の由。』とある。この社の境内であつた所に胸高周圍八米三の老杉があり、それを櫻木の太杉というてゐる。明治以前はこゝに天狗が住むと信ぜられて、毎年四五回萬燈を點じて祭つた。

サクラダ 櫻田 石川郡大野庄に屬する部落。
サクラタウゲ 櫻峠 鳳至郡宮地から當日のうち尻田に越える峠。高さ二六一米。
サクラダキ 櫻瀧 鳳至郡深見川の上流にある瀧。
サクラダキ 櫻瀧 鳳至郡仁岸川の上流にある瀧。

サクラダゴゼン 櫻田御前 加賀藩主第五代前田綱紀の女節姫は、廣島侯淺野吉長に嫁

して、櫻田御前と呼ばれた。又安藝御前ともいふ。

サクラダゴゼン 櫻田御前 加賀藩主第六代前田吉徳の女喜代姫。廣島侯淺野宗恒に嫁し、櫻田御前と呼ばれた。
サクラダニシヤ 櫻谷社 石川郡櫻田の産土神であつた。佐那武神主河崎氏の兼勤した社で、祭神は瀬織津姫命とせられるが、今は大野湊神社に合祀せられた。

サクラバタケ 櫻畠 金澤の町名で、今一番丁より十番丁まである。此の地は岸川縁の斷崖の上、吹屋坂邊から吹上・關野邊の惣名である。昔は泉野新村の荒地で、人家もなく、櫻樹のみ植えてあつたため此の名が起つたので、今櫻木と呼ぶ地も一區であつたといふ。
サクラバタケカクバ 櫻畠角場 菅家見聞集に、『寛文三年六月三日岸川櫻畠之下がけ、淺野川觀音山之下、夏之内御家中之諸士鐵炮稽古所に被定。依之居屋敷之外、於所々鐵炮打候儀被停止。』とある。延寶金澤圖にはこの角場を二十間に三十間と記してある。

サクラキクエモン 櫻井九右衛門 祿四百石。大坂再役に青屋口にて敵首一つを取つた。子無く、池田治部左衛門の二男を智養子として九右衛門と號した。この九右衛門又子なく、池田二代治部左衛門の五男八十郎を養子としたが、父子不和の爲に之を返し、遂に家斷絶した。

サクラキゴウ 櫻井郷 龜尾記に、河北郡薬師村若宮八幡の社記に、當社は櫻井の郷に鎮座するとあるが、同郡に櫻井郷といふものはないと記する。
サクラキサプロエモン 櫻井三郎右衛門

河北郡高松の人。天正十二年末森の役の起つた時、前田利家の爲に敵情を告げ、且つ嚮導した功に依り、三郎右衛門並びに村民の宅地の永代地子銀を免ぜられた。因つて村民等恩を謝する爲、天明中三郎右衛門の祠を建て、英之社と稱し、嘉永二年之を額之社の境内に遷したが、明治八年地租免除を止められるに及び、更に碑を英之社の傍に建て、祠は大正五年之を廢して額之社の相殿とした。三郎右衛門は又嘗て羽咋郡太田から大海川の水を引くこと延長二里二十四町、以て加能の田地四百八十三町に灌漑の利を興へたといふ。

サクラキセツカン 櫻井雪館 金澤の俳人。梅室の父で、俳諧を希因に學んだ。寛政二年二月廿二日歿。享年七十四。
サクラキトモチカ 櫻井知親 通稱木曾右衛門、初め焉哉。爲兵衛正可の三男。寛文十一年俸十人扶持を得て御坊主となり、延寶五年新知百五十石を受け、奥小將に列し、元祿三年五十石を加へ、十四年組外に班し、享保九年御馬廻に轉じ、元文三年八十三歳を以て歿した。その系統は孫木曾右衛門正路に至つて斷絶した。

サクラキバイシツ 櫻井梅室 金澤の俳人。通稱次郎作、諱は能充。明和六年金澤に生まれ、磨刀を業としてゐた。俳名は初め雪雄・素芯・素信、所居は方圓齋・運速庵・餘花園・寒松庵・相應軒・槐庵などといひ、又陸々山人と號したこともある。初め馬來に學び、後蘭更を師とした。文化元年出遊以後足跡天下に普く、江戸・京都及び金澤に住し、嘉永四年四月終に二條家から花之下宗匠の號を受け、五年十月朔日京都で八十四歳を以て歿した。本

善寺に葬り、金澤慶覺寺に分骨せられた。その句集には梅室附合集・梅室兩吟集・梅室家集・方圓俳諧集・方圓發句集・増補掌中梅室發句集・袖中類題方圓句集がある。又追悼集にかきくれ集があり、歿年の臘月朔東山双林寺で興行した百韻その他を載せ、翌年刊行せられてゐる。安政元年尾張の春松の著した梅室紀年録によつて、最も能くその生涯が窺はれる。

サクラキサマサミチ 櫻井正路 通稱強次郎。木曾右衛門。寛保三年幼少で父作右衛門正方の祿三の一を襲ぎ、寶曆四年本知二百石に復し、御馬廻に班したが、明和元年二月廿二日不行狀を以て改易せられた。時に廿六歳。
サクラキサマサヨ 櫻井正世 通稱平十郎。初諱正晟。爲兵衛正可の嫡子。萬治二年中小將となり、寛文三年新知百五十石を受け、十一年五十石を加へ、延寶五年大小將に列し、元祿五年父の二百五十石を襲いで自分知を除き、正徳元年五月朔六十八歳を以て歿した。
サクラキサマサヨシ 櫻井正可 通稱爲兵衛。父淨惠基安は松平忠直に仕へたが、慶長の末浪人して郷里河内丹南郡に退き、寛文三年歿した。正可正保二年前田利常に仕へて大小將となり、三年二百五十石を受け、天和二年御馬廻に班し、元祿四年七十九歳を以て歿。その嫡統は世々相繼いで藩の御右筆を勤めた。
サクラキリヨウケン 櫻井了元 諱は有眞。寶曆四年御鏡醫に召出されて俸十人扶持を受け、明和元年四月七十歳を以て歿した。子孫了元・大順・了元直寛等相繼ぐ。

サケ 鮭 政事要略所載延長十四年八月十五日の官符、定諸國例進地子雜物のうちに『加

サク—サケ